

# 道路空間活用WGの位置付けと変更点 について

# 道路空間活用WGの位置付けと変更点

## ◇ 道路空間活用WGの位置づけ



## ◇ 変更点

### 当初の予定 (H27.8 第1回道路空間活用WG時点)

- 各WGでの成果などから成る交通戦略案を作成し、多様な意見を反映させた上で、平成28年内を目途に東京の交通戦略として取りまとめる。



### 今後の進め方

- 3つのWGの検討成果を2020年に向けて取り組むプロジェクトとして取りまとめ、推進会議の報告とする。
- 交通戦略としての将来像については、今後策定する「都市づくりのグランドデザイン」に反映する。

## ◇ 「都市づくりのグランドデザイン」への反映

### （「2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について」答申より） ◇

#### 第4章 都市像の実現に向けて

##### 2－（2）人・モノ・情報の自由自在な交流の実現

（高密度で強靱な交通ネットワークの最大限活用）

- 具体的には、将来の道路ネットワーク形成により円滑な交通が実現する地域において、その個性を踏まえ、「ストックを生かす取組」として道路空間を再編することにより、歩行者の回遊や自転車走行、最新技術を活用した交通システムの導入のための空間を確保し、ゆとりやにぎわい、快適性・防災性などの機能を高め、新たな利活用、付加価値の創出を図っていくべきである。

（身近な生活を支える多様な交通基盤の確保）

- 周辺区部や多摩地域では、鉄道の駅前広場と整備が進む補助幹線の都市計画道路を生かし、駅からバスや自転車などを活用したフィーダーサービスを充実すべきである。

##### 2－（7）芸術・文化・スポーツによる都市の新たな魅力の創出

（スポーツ環境が整った都市づくり）

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを最大限に生かし、ユニバーサルデザインが施された交通機関、ネットワーク化された公園や広場、快適な歩道空間・自転車走行空間を利用して、あらゆる人が、身近な場所でもスポーツが楽しめる都市を目指すべきである。